

KORG



CONCERT

KORG DIGITAL PIANO

お買い上げいただきありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにもこの
取扱説明書をよくお読みになって、正しい方
法でご使用ください。

FC-300 取扱説明書

目次

安全上のご注意	2
バックアップバッテリーについて	3
データについて	3
おもな特長	3
はじめに	4
1. 各部の名称	4
2. 演奏するための準備	6
電源コードを差し込みます	6
キーカバーを開けます	6
電源をオンにします	6
音量を調節します	6
音の明るさを調節します	6
ヘッドホンを使うときは	6
譜面立てを使うときは	6
3. デモ演奏を聴いてみましょう	7
弾いてみましょう	8
1. 音色を選びます	8
2. [音色セレクター] で選んだ音色に 残響や広がり感を加えます	9
3. ペダルを使います	10
4. メトロノームに合わせて演奏します	11
5. 鍵盤のタッチ感を変えます	12
6. 弾きやすく、歌いやすくします (移調)	12
7. 音程のずれを微調整します	13
8. 音律を選びます	13
演奏を録音・再生してみましょう	14
1. 演奏を録音します	14
2. 録音した演奏を再生します	14
3. 一方のトラックを再生しながら、 もう一方のトラックに録音します	15
4. 二つのトラックの演奏データを一つにまとめます	15
5. 演奏を繰り返し再生します	16
6. あとどれくらい録音できるか知りたいときには	17
他の機器との接続	18
1. オーディオ機器やシンセサイザーとの接続	18
2. MIDI 機器との接続	18
資料	22
1. スタンドの組み立て方	22
2. MIDI インプリメンテーション	24
3. MIDI インプリメンテーションチャート	25
4. 故障とお思いになる前に	26
5. 仕様	26
6. 索引	26
7. [MIDI/TRANSPOSE] スイッチの機能	27
アフターサービス	

はじめに

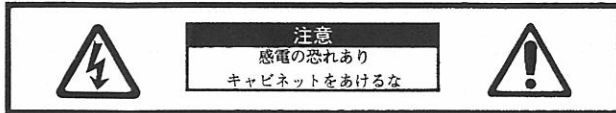
弾いてみましょう

演奏を録音・再生して
みましょう

他の機器と
の接続

資料

安全上のご注意



マークについて

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには以下の指示を守ってください。

ピアノはご家庭の中で身近に置かれ、お子様から専門家の方まで幅広くご愛用いただくものです。

ピアノは大きくて重いものですので、室内での置き場所や日常の取り扱いについて、安全にご使用いただくための注意をお願いします。小さなお子様には、最初にご家族の方から教えてあげてください。

警告



本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。

電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

設置は水平で平らな床面に行なってください。

本製品を移動する時に引きずって行なうと床面を傷付けるばかりでなく、思わぬ事故を起こしかねません。必ず2人以上で持ち上げて移動してください。

次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜いて、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。

- 電源コードやプラグが破損したとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
- 製品が（雨などで）濡れたとき
- 製品に異常や故障が生じたとき



次のような場所での使用や保存はしないでください。

- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など：外装等の変形や火災の原因になります。）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所



本製品はキーカバーまたは譜面立ての開閉時に指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分注意してください。



修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。



本製品の上に乗ったり、下にもぐり込んだりして遊ばないでください。

本製品の上に物を置かないでください。落ちると危険です。

本体に前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。

地震の時はピアノに近づかないでください。

電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。電源コードに傷がつき危険です。

本製品を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合は、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

本製品に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水やジュースなど）を絶対にいれないでください。



この機器を分解したり、改造したりしないでください。



付属のスタンドは「スタンドの組み立て方」(※p.22)に従って必ずピアノ本体を設置のうえ、使用してください。その際、必ずペダルコネクターをPEDAL端子に差し込んでください。

付属のスタンドは長い時間が経つとスタンドのネジが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには、安全のため「スタンドの組み立て方」に従って、ネジを締め直してください。

本製品を移動するときはピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「スタンドの組み立て方」(※p.22)に従い、再設置を行ってください。

付属の椅子はピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり、踏台にすると転倒したり壊れたりして危険です。

付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けしないでください。



付属の椅子の高さ調節は椅子から降りて確実に行ってください。腰掛けたまま行なうと手を挟むことなどが危険です。

注意



本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。

本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このためラジオやテレビなどを接近して同時に使用しますと、それらに雑音が入ることがあります。逆にラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは十分に離してご使用ください。

他の電気機器の電源コードといっしょのタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

スイッチやつまみに必要以上の力を加えると故障の原因となりますので注意してください。



長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対に使用しないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。

製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理は無償となりますが、保証書に購入店での手続きがない場合は無効となります。保証書は必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。

今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。



電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。

バックアップバッテリーについて

本製品は、電源オフ後にメモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用のバッテリーを装備しています。電源オン時に[MIDI/TRANPOSE]スイッチのランプが点滅しましたらバッテリーを交換する必要があります。最寄りのコルグ製品取扱店または(株)コルグ営業技術課にお問い合わせください。

[MIDI/TRANPOSE] スwitchを押すと点滅は解除されます。

データについて

万一異常な動作をしたときに、メモリーの内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータは外部のデータファイラー(記憶装置)等にセーブしておいてください(p.21)。また、データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱説明書の表記について

スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は [] で括弧しています。スイッチランプの点灯・点滅・消灯は次のように表します。



1 2 : 操作の手順を表します。

! : 使用上の注意を表します。

(p. ■) : 参照ページを表します。

☞ : 設定した内容の記憶に関する記述を表します。

おもな特長

多彩な音色 (p.8)

コンサートグランドピアノをはじめコルグ独自の ai (advanced intergrated) スクエアシンセシスシステムによる豊かな表現力を生む高品位な6種類の音色を内蔵しています。

レイヤー・スプリットモードでは、同時に2つの音色を組み合わせて演奏することができます。

エフェクト機能 (p.9)

小さな部屋で演奏している響きから、コンサートホールで演奏しているような響きまで、また音にうねりを与え広がりのある豊かな響きにするデジタルエフェクトを内蔵しています。

ペダル効果 (p.10)

アコースティックピアノと同じようにダンパーペダル・ソフトペダル・スヌートペダル・ソフトペダルがあります。ダンパーペダルはアコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果を再現します。

メトロノーム機能 (p.11)

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベルの音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

レコーダー機能 (p.14 ~)

テープレコーダーを操作する感覚で自分の演奏をそのまま録音・再生できる2トラックレコーダーを内蔵しています。この2トラックレコーダーはそれぞれのトラックに録音したデータを1つのトラックにまとめ、さらに録音を追加することによって同時に3つのトラック分の演奏を再生することができます。

タッチコントロール機能 (p.12)

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを3種類の中から選択できます。

音律 (p.13)

平均律の他に、2種類の古典音律(キルンベルガー、ヴェルクマイスター)を選択することによって古典音楽等の再現も可能になります。

音程の調節 (p.12, 13)

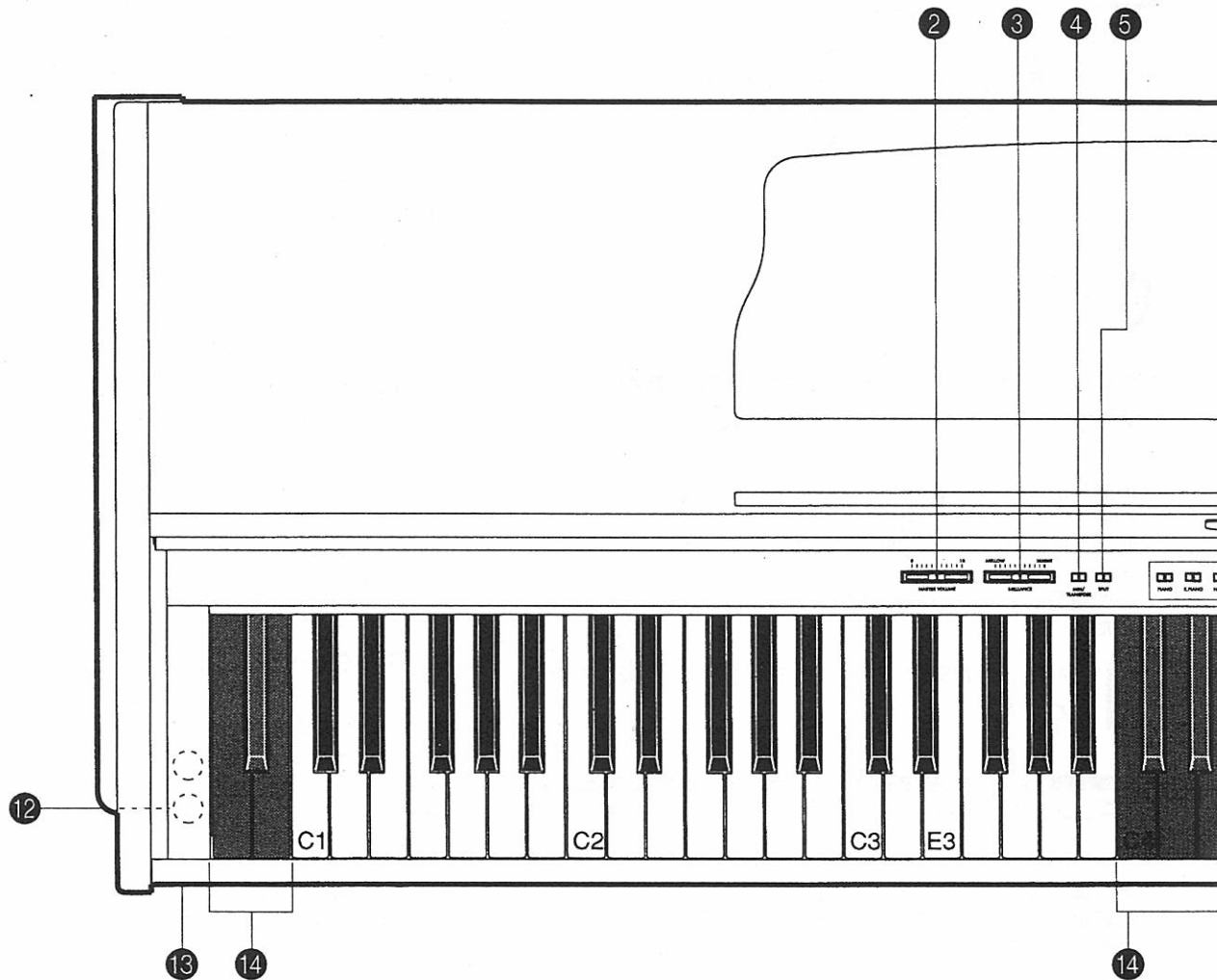
トランスポーズ機能により移調を、ピッチコントロール機能により音程の微調整をおこなうことができます。

MIDIの装備 (p.18 ~)

電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりをおこなう統一規格MIDIを装備しています。MIDIを使えば接続した機器間で相互にコントロールしあうことができ、本機を4パートマルチティンバー音源としても使用することができます。

1. 各部の名称

フロントパネル



① **[POWER]**スイッチ

電源をオン・オフします。押すたびにオン・オフが切り替わります。(☞p.6)

② **[MASTER VOLUME]**(マスターボリューム)スライダー

音量を調節します。(☞p.6)

③ **[BRILLIANCE]**(ブリリアンス)スライダー

音の明るさを調節します。(☞p.6)

④ **[MIDI/TRANPOSE]**(トランスポーズ)スイッチ

MIDIに関する設定(☞p.19)や、移調するときに使います(☞p.12)。この他さまざまな設定にも使用します。(☞p.27)

⑤ **[SPLIT]**(スプリット)スイッチ

高音部・低音部に異なる音色を割り当てられるスプリットモードを設定します。(☞p.8)

⑥ **[音色セクター]**

音色を選びます。(☞p.8)

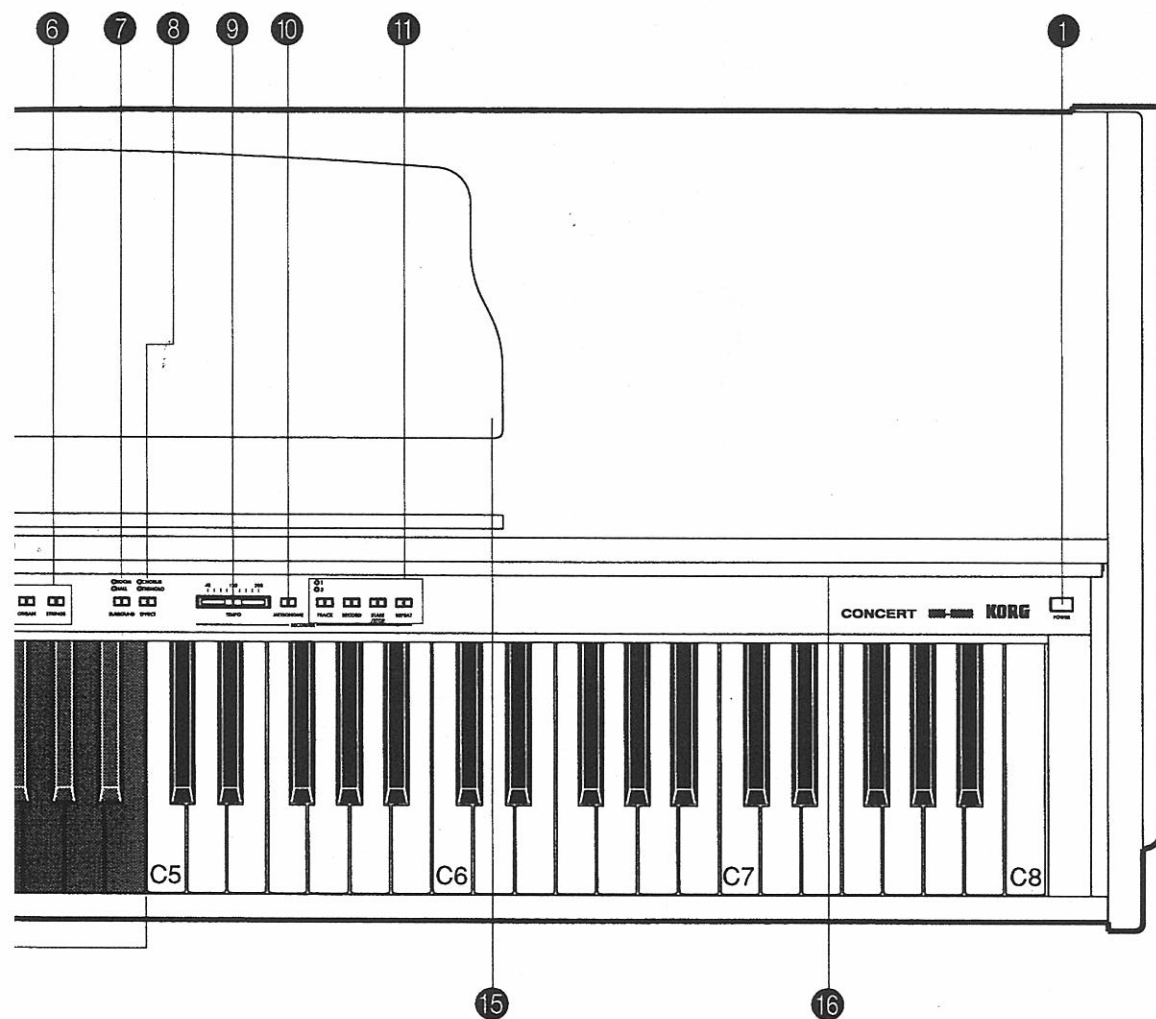
同時に二つの音色で演奏する(レイヤー・スプリットモード)こともできます。

⑦ **[SURROUND]**(サラウンド)スイッチ

サラウンド効果を加えます。(☞p.9)

⑧ **[EFFECT]**(エフェクト)スイッチ

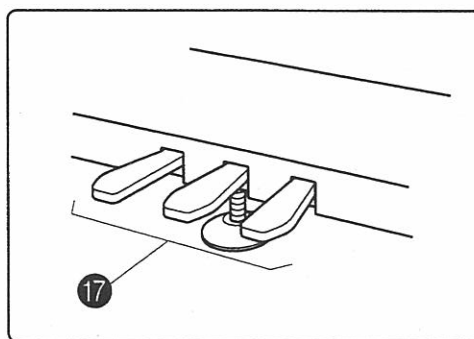
モジュレーション効果を加えます。(☞p.9)



リアパネルの説明は18ページをご覧ください。

- ⑨ **[TEMPO]**(テンポ)スライダー
メトロノーム・レコーダーのテンポを調節します。(p.9)
- ⑩ **[METRONOME]**(メトロノーム)スイッチ
メトロノームをスタート・ストップします。(p.11, 14)
- ⑪ **レコーダー操作部**
演奏を録音・再生します。(p.14)
- ⑫ **PHONES**端子(本体下側にあります。)
ステレオヘッドホンを接続します。(p.6)
- ⑬ **POWER**ランプ
- ⑭ **ピッチコントロール用鍵盤**
ピッチ(音程)を微調整します。(p.13)

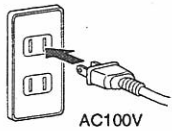
- ⑮ **譜面立て**(p.6)
- ⑯ **キーカバー**(p.6)
- ⑰ **ペダル**(p.10)



2. 演奏するための準備

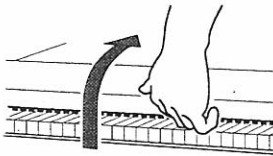
① 電源コードを差し込みます

電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。
必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。



② キーカバーを開けます

へりの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに奥の方へスライドさせます。
キーカバーを閉じるときは、へりの中央部分を軽く持ち、前方へスライドさせます。



- ▲ 開閉中は指や手を挟まないように十分注意してください。
無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になることがあります。

③ 電源をオンにします

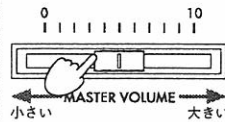
[POWER] スイッチを押して、電源をオンにします。
電源をオンにすると、正面左側にあるPOWERランプが点灯します。



- 2 電源をオフにするときはもう一度 [POWER] スイッチを押します。
電源をオフにすると、正面左側にあるPOWERランプが消灯します。

④ 音量を調節します

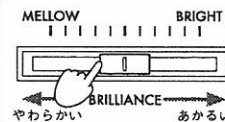
[MASTER VOLUME] スライダーを中程まで上げておきます。
スライダーを右に動かすと音量が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。“0”の位置では音が出ません。実際に弾きながら適度な音量に調節してください。



[MASTER VOLUME] スライダーは、本体のスピーカーと PHONES 端子、リアパネルの AUX OUT 端子から出力される音量をコントロールします。

⑤ 音の明るさを調節します

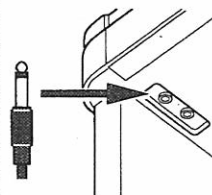
[BRILLIANCE] スライダーを中程の位置にします。
スライダーを右 (“BRIGHT”) に動かすと音が明るい感じに、左 (“MELLOW”) に動かすとやわらかい感じになります。好みに合わせて調節してください。



■ ヘッドホンを使うときは

ヘッドホン差し込むと本体のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。ヘッドホン端子は2つありますので、お二人で演奏を楽しむことができます。

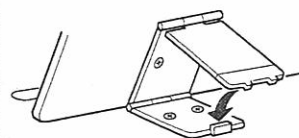
本体左下側にある PHONES 端子に、ステレオヘッドホンのプラグを差し込みます。



- ▲ ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量のまま長い時間きかないでください。

■ 譜面立てを使うときは

譜面立てを起こし、裏面についている2つのストッパーを使って倒れないようにします。



3. デモ演奏を聴いてみましょう

デモ演奏を6曲内蔵しています。デモ演奏を聴いて豊かな音色とその表現力を確認してください。

- 1** [MIDI/TRANSCOPE] スイッチを押しながら、
[START/STOP] スイッチを押します*1。
[音色セレクター] のランプが点灯します。



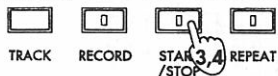
- 2** [音色セレクター] を押すと選んだ曲目が演奏されます（曲目は下の表をご覧ください）。
[START/STOP] スイッチを押すと、全曲を順番に演奏します。



音色セレクター	曲目
PIANO	ウェーバー / 「舞踏への勧誘 作品 65」 より
E.PIANO	シューマン / 子供の情景 ～トロイメライ
HARPSI	ショパン / ワルツ（遺作）ホ短調
VIBES	KORG オリジナル 1（ピアノ&ストリングス）
ORGAN	KORG オリジナル 2（ハーブシコード&ストリングス）
STRINGS	KORG オリジナル 3（オルガン&ストリングス）

演奏が終了すると操作 **1** の状態になります。他の曲を聴く場合は [音色セレクター] または [START/STOP] スイッチを押します*2。

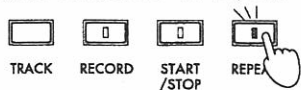
- 3** デモ演奏中に演奏を終了するときは、[START/STOP] スイッチを押します。



- 4** デモ演奏モードから抜けるには、演奏が始まっていない（操作 **1** の状態）ときは [START/STOP] スイッチを2度押します。デモ演奏中は [START/STOP] スイッチを押します。

繰り返しデモ演奏を聴くには

[REPEAT] スイッチを押して（ランプ点灯）デモ演奏を始める（上記操作 **1**、**2**）か、デモ演奏中に [REPEAT] スイッチを押す（ランプ点灯）と選んだ演奏を繰り返し聴くことができます*3。

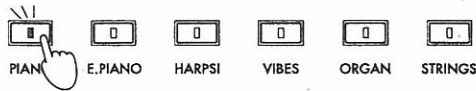


- *1 操作 **1** を行うと自動的に [SURROUND] に“ROOM”が選ばれます。また [音色セレクター] で音色を変更することができません。
- *2 デモ演奏時、メトロノーム、テンポの調節、録音、およびバウンスの機能は使えません。
- *3 区間内のリピート再生はできません。

弾いてみましょう

1. 音色を選びます

「音色セレクトター」を押して、弾きたい音色を選びます（音色の内容については下の表をご覧ください）。選んだ「音色セレクトター」のランプが点灯し、その音色で演奏することができます。



PIANO	明るく華やかに響くアコースティックピアノの音
E.PIANO	軽やかで透明感のあるエレクトリックピアノの音
HARPSI	クラシックな趣きのあるリアルなハープシコードの音
VIBES	まろやかなビブラフォンの音
ORGAN	荘厳なパイプオルガンの音
STRINGS	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

異なる2種類の音色を組み合わせて演奏するには

異なる2種類の音色を組み合わせて演奏することができます。次の2つのモードがあります。

○ レイヤーモード

一つの鍵を弾くと、同時に二つの音色が鳴ります。

○ スプリットモード

88の全鍵のある位置から「高音側」と「低音側」に分けてそれぞれの音色で鳴ります。

（シングルモード：全鍵にわたって一つの音色だけで鳴る通常のモードです。）

レイヤーモード

1 組み合わせたい2つの「音色セレクトター」を同時に押します。

選んだ2つの音色セレクトターのランプが点灯します。同時発音数は16音になります。

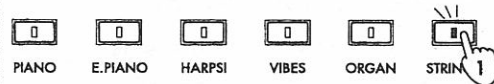


2 「音色セレクトター」を一つだけ押すとシングルモードになります。

また[SPLIT]スイッチを押すとスプリットモードになります。

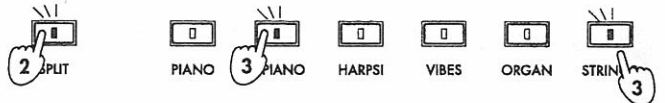
スプリットモード

1 シングルモードのときに、鍵盤の「高音側」で鳴らしたい音色の「音色セレクトター」を押します。



2 [SPLIT]スイッチを押します。

[SPLIT]スイッチのランプが点灯し、E3（※p.4）から上の鍵盤は操作①で選んだ音色に、E♭3より下の鍵盤はアコースティックベースの音色になります。



3 「高音側」の音色を変更するときは、「高音側」で弾きたい音色の「音色セレクトター」を押します。

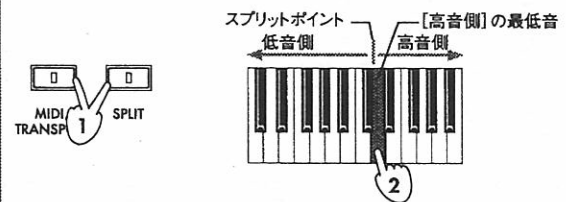
「低音側」の音色を変更するときは、「高音側」で弾きたい音色の「音色セレクトター」を押しながら、低音側で弾きたい音色の「音色セレクトター」を押します。

「高音側」と「低音側」の音色を入れ替えるときは、一度「高音側」の音色を変えてから、「高音側」と「低音側」の「音色セレクトター」を順番に押してください。

二つの音域の別れる位置の変更

「高音側」と「低音側」の二つの音色が鍵盤上で分かれる位置をスプリットポイントといいます。このスプリットポイントを変更することができます。

1 [MIDI/TRANSPOSE]スイッチを押しながら、[SPLIT]スイッチを押します。



2 操作①のスイッチを押したまま、[高音側]の最低音とする鍵を押します。

押した鍵よりも下の（低い）鍵盤が「低音側」として、押した鍵を含めた上の（高い）鍵盤が「高音側」として設定されます。

⚠ 「低音側」がアコースティックベースのときは、スプリットポイントは変更できません。

✎ スプリットポイントは、スプリットモードを解除すると最初の位置（E3）に戻ります。

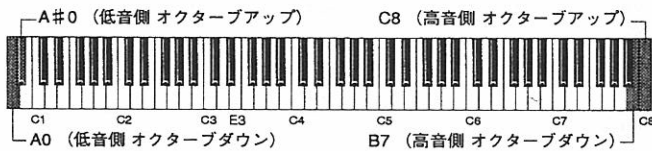
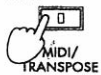
オクターブの変更

「高音側」、「低音側」のそれぞれの音色の音域を±3オクターブまで変えることができます*1。

[MIDI/TRANPOSE] スイッチを押しながら、表に示す鍵を押すと音域が変わります。

鍵を押すごとにそれぞれ1オクターブずつアップ・ダウンします。

A0	低音側のオクターブダウン
A#0	低音側のオクターブアップ
B7	高音側のオクターブダウン
C8	高音側のオクターブアップ



スプリットモードを解除するとオクターブの設定は音域を変更していない状態に戻ります。

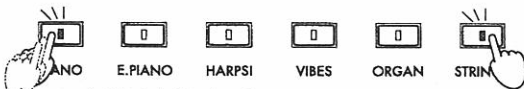
低音側がアコースティックベースのときはオクターブアップ・ダウンの変更はできません。

内蔵の音源が発音する音域には制限があります。[高音側]の音色をオクターブアップしたり、[低音側]の音色をオクターブダウンすると、最高音域・最低音域の1オクターブが繰り返し発音します。

レイヤーモードとスプリットモードでの二つの音色の音量バランスの変更

音量を小さくしたいほうの[音色セクター]を押しながら、音量を大きくしたい[音色セクター]を繰り返し押します。

繰り返し押している[音色セクター]の音色の音量が大きくなります。



音量を大きくしたい方の[音色セクター]を繰り返し押します。

音量バランスは、レイヤーモードおよびスプリットモードを解除したあとも記憶されます。

スプリットモードで低音側にアコースティックベースの音色が設定されているときは、音量バランスの変更はできません。

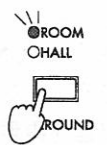
2. [音色セクター] で選んだ音色に残響や広がり感を加えます

■ 音に残響を加えます

[音色セクター] で選んだ音色に残響と深みを加え、コンサートホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。これをサラウンド効果といいます。

[SURROUND] スイッチを押して、加えたい効果を選びます。

押すたびにスイッチ左上のランプが点灯して効果が加わります。



ROOM	残響音の多い部屋のような響きが得られます。
HALL	コンサートホールのような響きが得られます。
OFF (ランプ消灯)	サラウンド効果はかかりません。ダンパーペダルを踏むと、[PIANO]の音色にアコースティックピアノの響きをシミュレートした共鳴効果を得ることができます。(p.10)

■ 音に広がりを加えます

[音色セクター] で選んだ音色にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。これをモジュレーション効果といいます。

[EFFECT] スイッチを押して、加えたい効果を選びます。

押すたびにスイッチ左上のランプが点灯して効果が加わります。



CHORUS	音が広がるような効果が得られます。
TREMOLO	左右に音が行き交うような効果が得られます。
OFF	モジュレーション効果はかかりません。

[SURROUND]と[EFFECT]の効果は[音色セクター]ごとに設定することができます。以後その[音色セクター]を選ぶたびに自動的に同じ効果が設定されます。

[SURROUND]と[EFFECT]で設定した効果は、電源を切った後も記憶されます。

*1 MIDIに送信されるノートナンバーは、オクターブアップ・ダウンしても変更されません。

3. ペダルを使います

ダンパー・ソステヌート・ソフトの3種類のペダルがあります。これらのペダルを使って演奏をより効果的に表現することができます。

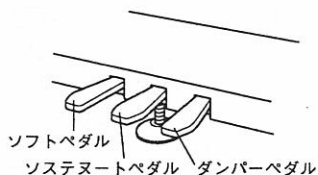
ダンパーペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。

[SURROUND] の設定がオフのとき [PIANO] の音色にアコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴音を再現することができます。これをレゾナンスシミュレーションといいます。

ソフトペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。



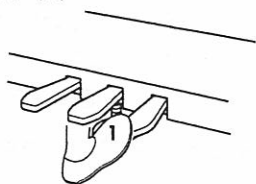
ソステヌートペダル

任意の音に対してのみ、ダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音にたいしてはソステヌート効果はかかりません。

■ ダンパーペダルの共鳴効果の選択

ダンパーペダルを踏んだときにかかるピアノの弦の共鳴音の長さが選択できます。

1 [MIDI/TRANSCOPE] スイッチを押しながら、ダンパーペダルを踏みます。



2 操作 1 の状態で、[SURROUND] スイッチを押すたびに設定が切り替わります。



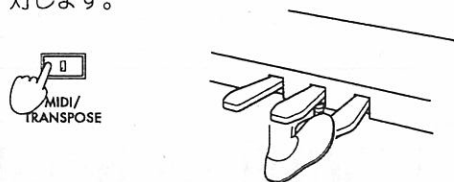
ROOM (点灯)	アコースティックピアノに近い共鳴効果がかかります。
HALL (点灯)	長めの共鳴効果がかかります。
両ランプ (消灯)	共鳴効果はかかりません。

▲ サラウンド・エフェクトが設定されているときと、[音色セクター] に [PIANO] (シングルモード) 以外の音色が設定されているときはこの効果はかかりません。

■ レイヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定

レイヤーモードおよびスプリットモードにおいて、ペダルの効果を二つの音色のどちらにかけるかを設定します。

[MIDI/TRANSCOPE] スイッチを押しながら、ダンパーペダルを踏みます。ペダルの効果がかかる [音色セクター] のランプが点灯します。



ダンパーペダルを踏むたびに、“一方の [音色セクター]” → “もう一方の [音色セクター]” → “両方の [音色セクター]” の順番で効果がかかります。

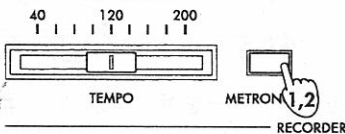
▲ 低音側がアコースティックベースの音色のときは設定できません。

4. メトロノームに合わせて演奏します

正確なテンポに合わせて演奏するときにはメトロノームを使うと便利です。このメトロノームは次章で説明するレコーダーの拍子やテンポの基準になります。

■ メトロノームを鳴らします

[METRONOME] スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。

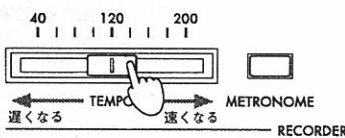


もう一度 [METRONOME] スイッチを押すとストップします。

■ テンポを調節します

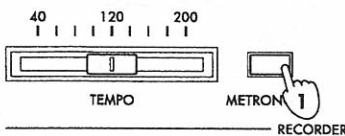
[TEMPO] スライダーを動かしてテンポを調節します。

設定できる範囲は、♩ = 40 ~ 200 です。

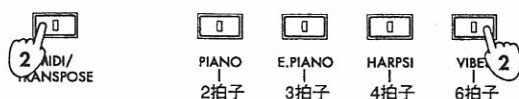


■ 拍子を設定します

[METRONOME] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。



[MIDI/TRANPOSE] スイッチを押しながら、設定する拍子に対応する [音色セレクター] を押します。押された [音色セレクター] のランプが点灯して、選択された拍子の最初にアクセント音が入ります。アクセント音を出さないようにするにはランプの点灯している音色セレクターを押してランプを消灯させます。

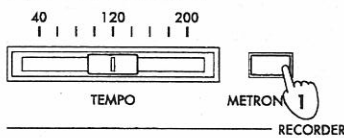


電源を入れた直後は拍子設定のない (アクセントのない) 状態となります。

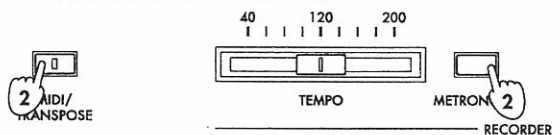
メトロノームを使用すると最大発音数は31音になります。

■ 音量を調節します

[METRONOME] スイッチを押してメトロノームをスタートさせます。



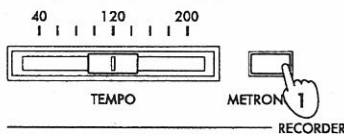
[MIDI/TRANPOSE] スイッチを押しながら、[METRONOME] スイッチを押します。押すたびにメトロノームの音量が大きくなります。音量の調節は10段階です。最大になると最小の音量に戻り、また大きくなっていきます。



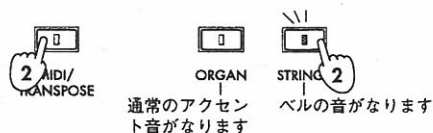
■ アクセント音の選択

メトロノームのアクセント音をベルの音にすることができます*1。

[METRONOME] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。



[MIDI/TRANPOSE] スイッチを押しながら、[音色セレクター] の [STRINGS] を押します。[STRINGS] を点灯させると、ベルの音が拍子の頭になります。[ORGAN] を点灯させると、通常のアクセント音になります。



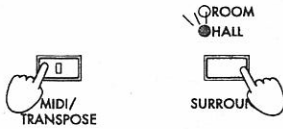
*1 ベル音が鳴るように設定をするとMIDIマルチの受信チャンネルは1チャンネル減って3チャンネルになります。

レコーダーに録音した音色がバウンスしたものを含めて全てレイヤーカスプリットモードで、パネルの設定もレイヤーもしくはスプリットモードの場合に、レコーダーをスタートさせると、メトロノームのアクセント音はベルの音が鳴る設定になっていてもベルの音が鳴らない状態になります。この場合、レコーダーの再生をストップするか、パネルの設定をシングルモードにするとベル音が鳴るようになります。

5. 鍵盤のタッチ感を変えます

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチコントロール機能といいます。

[MIDI/TRANSPOSE] スイッチを押しながら、
[SURROUND] スイッチを押します。
押すたびに設定が順番に切り替わります。



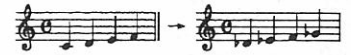
STANDARD (両ランプ消灯)	通常のピアノタッチです。
LIGHT (ROOM 点灯)	弱く弾いても強音が出せるタッチです。 (軽いタッチ)
HEAVY (HALL 点灯)	強く弾かないと強音が出せないタッチです。 (重いタッチ)

電源を入れた直後は、自動的に“STANDARD”に設定されます。

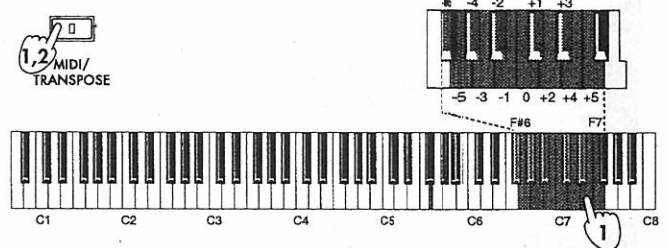
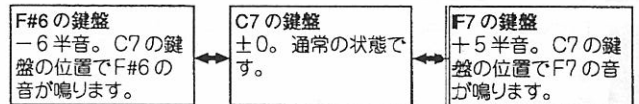
6. 弾きやすく、歌いやすくします (移調)

黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、他の楽器や歌に演奏とキー(調)が合わせられないときなどに、キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵を余り使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲でずらすことができます。

たとえば1半音上げた場合、左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



[MIDI/TRANSPOSE] スイッチを押しながら、F#6 ~ F7のいずれかの鍵盤を押します。
C7以外の鍵を押えると[MIDI/TRANSPOSE]スイッチのランプが点灯して、トランスポーズされたことを示します。押えた鍵の音の高さがC7鍵の位置に対応するように鍵盤全体の音の高さが移調します。



トランスポーズを解除するときは、トランスポーズ用鍵盤は押さえずに[MIDI/TRANSPOSE]スイッチだけを押し、手を離します。
[MIDI/TRANSPOSE]スイッチのランプが消えて鍵盤は元の調に戻ります。

トランスポーズの設定は、本体の電源を切ると自動的に解除されます。

例：曲の調子を半音上げて演奏するには
C7の鍵を押さえたときにC#7の音が鳴るようにします。

[MIDI/TRANSPOSE] スイッチを押しながら、C#7の鍵盤を押します。

例：キーがBbの曲をGの指使いに直して演奏するには
Bbの音は、Gの音から見て短3度の(3半音高い)音にあたります。したがって、C7の鍵盤を押したときにC7よりも3半音高いD#7の音が出るようにします。

[MIDI/TRANSPOSE] スイッチを押しながら、D#7の鍵盤を押します。

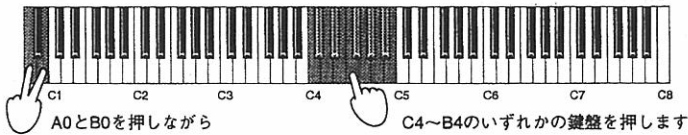
7. 音程のずれを微調整します

ピッチ（音程）の微調整を行ないます。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙な音程のずれを調整します。±50セント（1セントは半音の100分の1）までずらすことができます。変更したチューニングは、本体の電源を切ると自動的に元に戻ります。（A4 = 440Hz）

■ ピッチを上げるには

A0とB0の鍵を押しながら、C4からB4までの間のいずれか一つの鍵盤を押します。

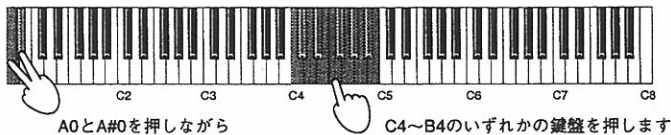
いずれの鍵でも、一回押すたびに約1セントずつピッチが高くなります。



■ ピッチを下げるには

A0とA#0の鍵を押しながら、C4からB4までの間の、いずれか一つの鍵盤を押します。

いずれの鍵でも、一回押すたびに約1セントずつピッチが低くなります。

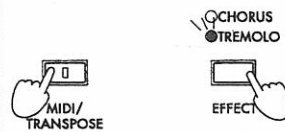


8. 音律を選びます

クラシック音楽には古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するためにキルンベルガー（Kirnberger）・ヴェルクマイスター（Werckmeister）という2種類の古典音律と、今日鍵盤楽器で広く用いられている平均律の3種類の音律が選択できます。

[MIDI/TRANSPOSE] スイッチを押しながら、[EFFECT] スイッチを押します。

押すたびにスイッチ上のランプが点灯して音律が切り替わります。



キルンベルガー (CHORUS 点灯)	18世紀初めにヨハンフィリップキルンベルガーが考案したキルンベルガー III スケールです。これは主にハーブシコードのチューニングに使用されます。
ヴェルクマイスター (TREMOLO 点灯)	ドイツ人オルガニスト・音楽理論家のアンドリアスヴェルクマイスターによるヴェルクマイスター III スケールです。これはバロック時代後期に比較的自由的な移調を目的として考案されたものです。
平均律 (CHORUS・TREMOLO 両ランプ消灯)	今日の鍵盤楽器のほとんど全てがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

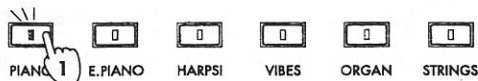
ここで設定された音律は電源を切るまで変更されません。電源を入れた直後は自動的に平均律に選択されます。

- [PIANO]（ピアノ）の音色ではストレッチチューニングを用いています。ストレッチチューニングはうねりを抑さえ、より自然な響きを得るために平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高いピッチに調整したものです。

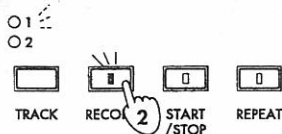
演奏を録音・再生してみましょう

1. 演奏を録音します

1 [音色セクター] を押して録音する音色を選びます。録音中に音色を切り替えることはできません。再生時には、ここで選んだ音色が自動的に選ばれます*1。

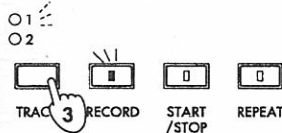


2 [RECORD] スイッチを押します。[RECORD] スイッチのランプが点灯し、トラック1または2のランプが点滅します。



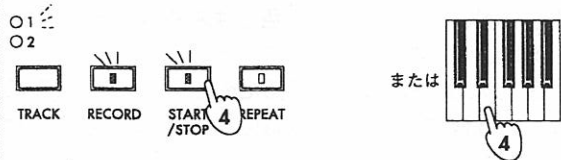
3 [TRACK] スイッチを押して録音するトラックを選びます。

[TRACK] スイッチを押すたびにトラック1、2のランプが交互に点滅します。録音するトラックを点滅させてください。2つのトラックを同時に録音することはできません。



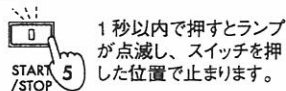
メトロノームのテンポに合わせて録音する場合はメトロノームを鳴らします (p.11)。

4 鍵盤を押すか、または [START/STOP] スイッチを押すと録音が始まります*2。録音中は [START/STOP] スイッチのランプが点灯します。

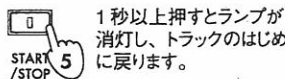


5 [START/STOP] スイッチを押すと、録音が終わります。

[START/STOP] スイッチを1秒以内で押すとスイッチを押した位置でトラックは停止し、ランプは点滅します。1秒以上押し続けるとトラックの最初まで戻って停止し、ランプは消灯します。



1秒以内で押すとランプが点滅し、スイッチを押した位置で止まります。

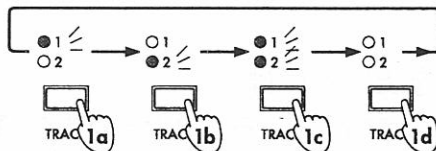


1秒以上押すとランプが消灯し、トラックのはじめに戻ります。

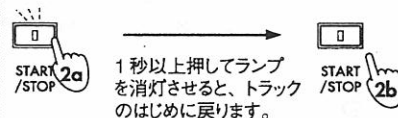
2. 録音した演奏を再生します

1 [TRACK] スイッチを押して、再生するトラックを選びます。

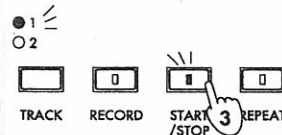
再生するトラックのランプが点灯します。[TRACK] スイッチを押すたびにトラック1→トラック2→両方のトラック→どちらも選ばれないの順番で切り替わります。



2 演奏の開始位置を確認します。[START/STOP] スイッチのランプが点滅している場合は、トラックの位置が途中で最後になっているので、演奏を最初から再生する場合は [START/STOP] スイッチを1秒以上押し続けてランプを消灯させます。



3 [START/STOP] スイッチを押すと、再生が始まります*3。再生されている間は [START/STOP] スイッチのランプが点灯します。



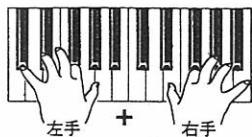
[TEMPO] スライダーで、再生するテンポを変えることができます (p.11)。曲のテンポを変えてもピッチ (音程) は変化しません。

4 [START/STOP] スイッチを押すと、演奏が停止します (「1. 演奏を録音します」操作 5 参照)。また、トラックのデータをすべて再生し終わると自動的に [START/STOP] スイッチのランプが点滅します。

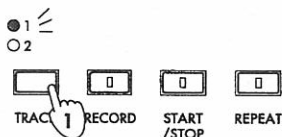
*1 録音したトラックの最後に演奏の続きを録音する場合に [音色セクター] で新しい音色を選んでも、音色は再生時に切り替わりません。最初の録音時に選択した音色で最後まで再生されます。
*2 再生している曲の途中で [START/STOP] スイッチを押して、一時停止した位置から録音に切り替えた場合、一時停止した位置から正しく録音が始まらないことがあります。
*3 レコーダーで再生されている演奏データは、MIDI OUTからは出力されません。

3. 一方のトラックを再生しながら、もう一方のトラックに録音します

あらかじめ一方のトラックに録音しておいた演奏を聴きながら、それに合わせて別の演奏をもう一方のトラックに録音することができます。右手と左手の演奏を片手ずつ別々に録音したり、連弾や二重奏などを録音することができます。



- 1 [TRACK] スイッチを繰り返し押し、再生する（録音済みの）トラックを選びます。再生するトラックのランプを点灯させます。（『2. 録音した演奏を再生します』操作①参照）

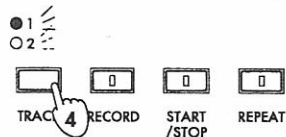


- 2 演奏の開始位置を確認します。（『2. 録音した演奏を再生します』操作②参照）

- 3 「1. 演奏を録音します」の操作①と②を参考にして、録音の準備をします。

- 4 [TRACK] スイッチを押して、録音するトラックを選びます。

録音するトラックのランプが点滅します。[TRACK] スイッチを押すたびに、録音トラックが切り替わります。操作①で選んだトラックではないもう一方のトラックを選んでください。（図はトラック1を再生しながら、トラック2に録音をするときの例です。）



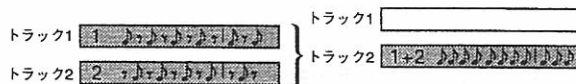
- 5 **!** 操作①で選んだ再生するトラックを録音トラックにすると、前の演奏は消えて新たに演奏したデータが録音されます。

- 5 「1. 演奏を録音します」の操作④と⑤を参考にし、再生されるパートを聴きながら演奏を録音してください。

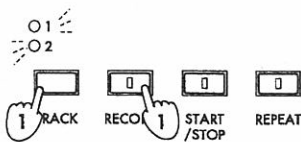
録音済みのトラックを再生せずに、もう一方のトラックに別の演奏を録音する場合は、操作①で [TRACK] スイッチを押してトラックのランプを消灯してください。

4. 二つのトラックの演奏データの一つにまとめます

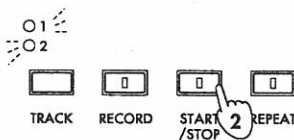
二つのトラックの演奏データの一つのトラックにまとめます。この操作をバウンスといいます。この操作を行うとトラック1と2のデータはトラック2にまとめられ、トラック1は空になります。新たにトラック1に演奏を録音することによって合計三つの演奏データを同時に聴くことができます。



- 1 [RECORD] スイッチを押しながら、[TRACK] スイッチを押します。トラック1と2のランプが交互に点滅します。



- 2 [START/STOP] スイッチを押すと、バウンスが開始します。バウンスが終了すると点滅が止まり、トラック2のランプが点灯します。トラック1と2の演奏データはトラック2にまとめられて、トラック1の演奏データは空になります。



- 5 **!** バウンス操作は1回だけ行なえます。新たにトラック2に録音してバウンスデータを消すと、再びバウンスが可能となります。

バウンスして一つにまとめた演奏データを再生途中で一時停止して、録音に切り替えることはできません。曲の最後からなら可能です。

5. 演奏を繰り返し再生します

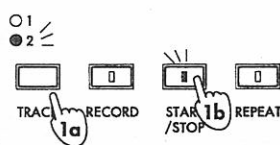
録音した曲のある区間内、または曲全体を繰り返し再生します。演奏のむずかしい部分の練習や、一曲を続けて聴くときなどに便利です。



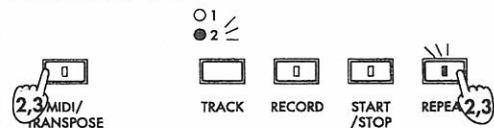
■ リピート区間の設定

スタートポイントからエンドポイントの間を繰り返し再生する場合は、次の操作に従ってリピート区間を設定してください。トラックの最初から最後までを繰り返し再生する場合は、ここでの設定は必要ありません。

- 1 リピート再生するトラックを [TRACK] スイッチで選び、[START/STOP] スイッチを押して演奏を再生します。



- 2 演奏を聴きながら、繰り返す始めの位置（スタートポイント）で [MIDI/TRANSEPOSE] スイッチを押しながら [REPEAT] スイッチを押します。
[REPEAT] スイッチのランプが点灯し、スタートポイントが設定されます。



- 3 再生を続けて、繰り返す終わりの位置（エンドポイント）で [MIDI/TRANSEPOSE] スイッチを押しながら [REPEAT] スイッチを押します。
[REPEAT] スイッチのランプが消灯し、エンドポイントが設定されます。エンドポイント設定後、自動的に指定区間内を繰り返し再生を始めます。

▲ リピート区間の設定はトラック1とトラック2のそれぞれに1区間ずつ設定できます。
録音をし直したり、バウンスをおこなうとそれ以前に設定しておいたリピート区間は解除されます。

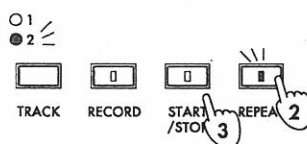
♣ 設定したリピート区間は電源を切っても記憶されます。

■ リピート再生の方法

繰り返し再生させたいトラックを [TRACK] スイッチを押して選びます。



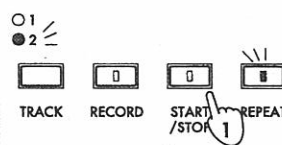
- 2 [REPEAT] スイッチを押します。
[REPEAT] スイッチのランプが点灯します。



- 3 [START/STOP] スイッチを押すと再生が始まり、設定したリピート区間内を繰り返し再生します。
リピート区間を設定している場合はその区間を、設定していない場合は録音したトラックの最初から最後までを繰り返し再生します。

■ リピート区間の解除

- 1 [START/STOP] スイッチを1秒以上押して、ランプを消灯させます。



- 2 [MIDI/TRANSEPOSE] スイッチを押しながら、[REPEAT] スイッチを押します。
[REPEAT] スイッチのランプが点灯します。

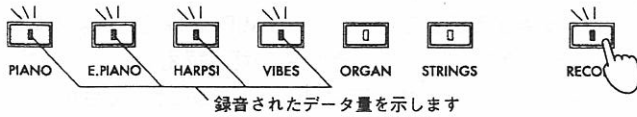


- 3 続けてもう一度 [MIDI/TRANSEPOSE] スイッチを押しながら、[REPEAT] スイッチを押すと設定が解除されます。
[REPEAT] スイッチのランプが消灯します。

6. あとどれくらい録音できるか知りたいときには

[RECORD] スイッチを押し続けます。

録音した演奏データの量を [音色セクター] のランプが点灯する数で表示します。録音した演奏データ量が増えるにしたがってランプの点灯する数が多くなり、録音できる領域が少なくなったことを確認できます。



- ▲ 録音できる領域がメモリーの残り10パーセント以下になると [RECORD] スイッチのランプが点滅します。残しておきたい演奏データは市販のデータファイラーを使って演奏データを保存・管理することをお勧めします (p.21)。

他の機器との接続

1. オーディオ機器やシンセサイザーとの接続

AUX IN 端子 (L・R)

シンセサイザーなど他の楽器や機器のアウトプット端子と接続して、本機の内蔵スピーカーから音を出すための端子です。音量は接続した機器のボリュームで調節してください。

AUX OUT 端子 (L・R)

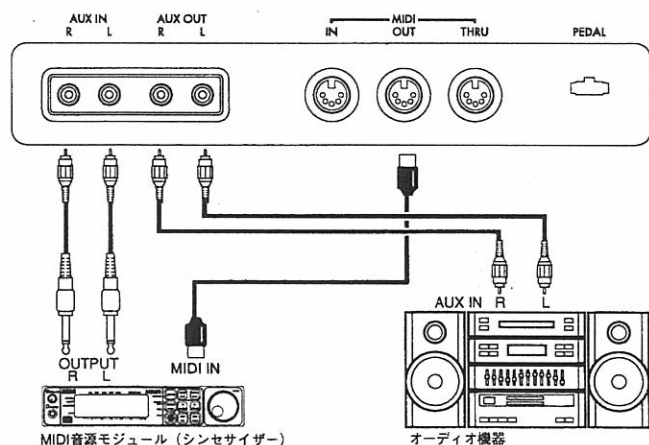
オーディオ機器などのインプット端子と接続して、より大きな音を出したり、テープレコーダーなどに演奏を録音するときに使用する端子です。音量は本機の [MASTER VOLUME] スライダーで調節してください。

MIDI 端子 (IN・OUT・THRU)

シンセサイザー、シーケンサー、リズムマシンなどの MIDI 機器と接続して、情報を交換するための端子です。次の『2. MIDI 機器との接続』をご覧ください。

PEDAL 端子

付属スタンドのペダルコードを接続します。(p.23)



2. MIDI 機器との接続

* 他の MIDI 機器を接続されずに本機単体でご使用になる方はこの項をお読みになる必要はありません。

■ MIDI (ミディ) とは?

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子機器やコンピュータの間で演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

本機を演奏することによって、他の MIDI を備えた楽器を鳴らすことができます。このとき音色の切り替えやダンパーペダルなどの効果を一緒にコントロールすることができます。また他の MIDI キーボードやシーケンサー (自動演奏装置) から本機をコントロールして内蔵音源を鳴らすこともできます。複数の MIDI 機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができるでしょう。その他にも本機のリコーダーのデータを保管するときにも MIDI を使っています。

ここでは本機に関連した MIDI の使用方法について説明します。さらに MIDI に興味のある方は MIDI についてのわかりやすく説明した本も数多く出版されていますのでそちらもご利用ください。

■ MIDI の接続方法

MIDI 情報をやり取りするには、専用の MIDI ケーブルを使います。このケーブルを本機の MIDI 端子とやり取りする MIDI 機器の MIDI 端子に接続します。この MIDI 端子は 3 種類あり、本機には本体の後ろ側にあります。

MIDI IN 端子

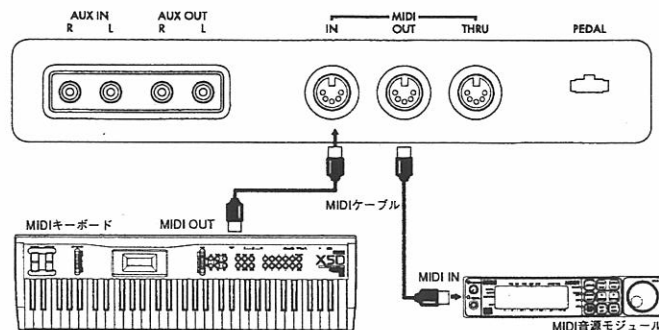
MIDI 情報を受信します。外部 MIDI 機器 (MIDI キーボードやシーケンサーなど) で、本機の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本機の MIDI IN 端子と外部 MIDI 機器の MIDI OUT 端子を MIDI ケーブルで接続します。

MIDI OUT 端子

MIDI 情報を送信します。本機を弾いたときに出力される MIDI 情報で外部 MIDI 機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本機の MIDI OUT 端子と外部 MIDI 機器の MIDI IN 端子を MIDI ケーブルで接続します。

MIDI THRU 端子

MIDI IN から入ってきた MIDI 情報をそのまま外へ送り出します。



MIDI チャンネル

MIDI機器との接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器のMIDIチャンネルを同じ番号に設定します。MIDIチャンネルには1～16があります。

[MIDI/TRANSCOPE] スイッチを押しながら、設定したいMIDIチャンネルに対応したC2～D#3のいずれかの鍵を押します (p.27)。

電源を入れた直後は、自動的にチャンネル1に設定されます。

ローカルオン・オフの設定

本機の鍵盤を弾いたときに内蔵音源は鳴らさずにMIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合に本機をローカルオフに設定します。通常はローカルオンに設定して鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

[MIDI/TRANSCOPE] スイッチを押しながら、[PIANO] の音色セレクターを押すたびに、オン・オフが切り替わります。

ローカルオン..... [PIANO] のランプ消灯

ローカルオフ..... [PIANO] のランプ点灯

電源を入れた直後は、自動的にローカルオンに設定されています。

プログラムチェンジ

本機から接続しているMIDI機器のプログラム番号を変えたり、接続しているMIDI機器から本機のプログラム番号を変えます。MIDIチャンネルごとに指定することができます。

プログラムチェンジの送信

本機から接続している外部MIDI機器のプログラム番号を変更します。送信には二つの方法があります。

鍵盤による送信

鍵盤を使って0～127までのプログラム番号を送信します。

[MIDI/TRANSCOPE] スイッチを押しながら、設定したいMIDIプログラムチェンジに対応したB4～A5のいずれかの鍵を押します (p.27)。

プログラムチェンジナンバー0～99を送信するには、[MIDI/TRANSCOPE] スイッチを押しながら、10桁のプログラムチェンジ0～9に対応するC5～A5の鍵を押し、次に1桁のプログラムチェンジ0～9に対応するC5～A5の鍵を押します。プログラムチェンジナンバー

100～127を送信するには、[MIDI/TRANSCOPE] スイッチを押しながら+100に対応するB4の鍵を押します。後は0～99と同様に10桁のプログラムチェンジ番号に対応する鍵を押し、次に1桁のプログラムチェンジ番号に対応する鍵を押します。

音色セレクターによる送信

[音色セレクター] で音色を選ぶと次の表のように0～56のMIDIプログラムナンバーを送信します。

プログラムチェンジの受信

外部からプログラムチェンジを受信すると、次のように本機の音色が切り替わります。

PC#: プログラムチェンジナンバー

PC#	音色	PC#	音色
シングル			
0	PIANO	27	E. PIANO/HARPSI
1	E. PIANO	28	E. PIANO/VIBES
2	HARPSI	29	E. PIANO/ORGAN
3	VIBES	30	E. PIANO/STRINGS
4	ORGAN	31	HARPSI/PIANO
5	STRINGS	32	HARPSI/E. PIANO
レイヤー			
6	PIANO + E. PIANO	33	HARPSI/VIBES
7	PIANO + HARPSI	34	HARPSI/ORGAN
8	PIANO + VIBES	35	HARPSI/STRINGS
9	PIANO + ORGAN	36	VIBES/PIANO
10	PIANO + STRINGS	37	VIBES/E. PIANO
11	E. PIANO + HARPSI	38	VIBES/HARPSI
12	E. PIANO + VIBES	39	VIBES/ORGAN
13	E. PIANO + ORGAN	40	VIBES/STRINGS
14	E. PIANO + STRINGS	41	ORGAN/PIANO
15	HARPSI + VIBES	42	ORGAN/E. PIANO
16	HARPSI + ORGAN	43	ORGAN/HARPSI
17	HARPSI + STRINGS	44	ORGAN/VIBES
18	VIBES + ORGAN	45	ORGAN/STRINGS
19	VIBES + STRINGS	46	STRINGS/PIANO
20	ORGAN + STRINGS	47	STRINGS/E. PIANO
スプリット (低音側 / 高音側)			
21	PIANO/E. PIANO	48	STRINGS/HARPSI
22	PIANO/HARPSI	49	STRINGS/VIBES
23	PIANO/VIBES	50	STRINGS/ORGAN
24	PIANO/ORGAN	51	BASS/PIANO
25	PIANO/STRINGS	52	BASS/E. PIANO
26	E. PIANO/PIANO	53	BASS/HARPSI
		54	BASS/VIBES
		55	BASS/ORGAN
		56	BASS/STRINGS

21～56のプログラムチェンジを受信するとスプリットポイントは初期設定の位置になります。57～127のプログラムチェンジを受信しても音色は切り替わりません。レコーダーを再生中にプログラムチェンジを受信した場合、停止した時点で音色が切り替わります。

プログラムチェンジキャンセル

プログラムチェンジの情報を送受信しないときはプログラムチェンジをキャンセルに、送受信するときはイネーブルにします。

[MIDI/TRANSPOSE] スイッチを押しながら、[E. PIANO] の [音色セクター] を押します。押すたびにキャンセル・イネーブルが切り替わります。

キャンセル [E. PIANO] のランプ点灯
イネーブル [E. PIANO] のランプ消灯

▲ 本機の鍵盤を使ってプログラムチェンジを行う場合、プログラムチェンジメッセージはここでの設定に関係なく送信します。

☞ 電源を入れた直後は、自動的にイネーブルに設定されます。

■ コントロールチェンジ

本機のダンパーペダルなどの情報を接続した外部 MIDI 機器に送信してコントロールしたり、外部 MIDI 機器からボリュームやダンパーペダルなどの情報を受信して本機をコントロールします。MIDI チャンネルごとにコントロールすることができます。これを送受信するときはコントロールチェンジをイネーブルに、しないときはコントロールチェンジをキャンセルに設定します。

[MIDI/TRANSPOSE] スイッチを押しながら、[HARPSI] の [音色セクター] を押します。押すたびに、キャンセル・イネーブルが切り替わります。

キャンセル [HARPSI] のランプ点灯
イネーブル [HARPSI] のランプ消灯

▲ コントロールチェンジのキャンセル・イネーブルを設定するときは、ペダルを踏まないで行ってください。

外部からのコントロールチェンジは、本機のペダルの設定の変更 (p.10 レイヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定参照) に関係なく、レイヤーモードやスプリットモードにおいても、つねに両方の音色に対して有効となります。

☞ 電源を入れた直後は、自動的にイネーブルに設定されます。

■ ベロシティカーブセレクト

ベロシティとは、鍵盤を叩くときの強さ (速さ) のことをいい、このベロシティに対する音量や音色の変化のしかたをベロシティカーブといいます。本機のベロシティカーブはピアノの演奏に適したカーブになっています。

本機の鍵盤で MIDI で接続したシンセサイザーなどを鳴らす場合、このカーブでは音量や音色の変化のしかたが不自然になることがあります。このようなときに接続したシンセサイザーの演奏に適したベロシティカーブに設定することができます。

[MIDI/TRANSPOSE] スイッチを押しながら、ベロシティカーブに対応した G7 または A7 の鍵を押します (p.27)。

G7 シンセサイザーに適したカーブ
A7 ピアノに適したカーブ

▲ ベロシティカーブセレクトは、MIDI で接続された外部の音源に対してのみ機能します。本機の音はタッチコントロールの設定に従います。

☞ 電源を入れた直後は、ピアノに適したベロシティカーブが自動的に設定されます。

■ 本機をマルチティンバー音源として使うには

本機は、内蔵音源を外部 MIDI 機器からコントロールして鳴らすことができる 4 パートマルチティンバー音源として動作します。

1 本機の MIDI IN とシーケンサー等の MIDI OUT を MIDI ケーブルで接続します。

2 接続したシーケンサー等から MIDI データを送信します。MIDI 受信チャンネルと本機の音色は次のように対応します。

接続するシーケンサー等からの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

MIDI 受信チャンネルは本機で設定している MIDI チャンネルと、それに続く 3 つのチャンネルが対応します。例えば、本機の MIDI チャンネルが 1 の場合は MIDI 受信チャンネル 1 は [音色セクター] で選ばれている音色、チャンネル 2 は [PIANO]、チャンネル 3 は [E. PIANO]、チャンネル 4 は [HARPSI] の音色が対応します。

MIDI チャンネル n 点灯中の [音色セクター]
MIDI チャンネル n+1 [PIANO]
MIDI チャンネル n+2 [E.PIANO]
MIDI チャンネル n+3 [HARPSI] n: 本機の MIDI チャンネル

プログラムチェンジメッセージを受信するとその番号に対応する本機の音色が選ばれます (p.19)。

▲ MIDI チャンネル 1 ~ 16 が対応します。例えば本機の MIDI チャンネルを 15 に設定した場合、チャンネル 15 は点灯中の [音色セクター]、チャンネル 16 は [PIANO] が対応し、その他は無視します。

また、本機のレコーダーを再生している場合、受信チャンネルと音色は (本機の MIDI チャンネルが n のとき)、MIDI 受信チャンネル n は点灯中の [音色セクター]、チャンネル n+1 にはレコーダートラック 1 の音色、チャンネル n+2 にはレコーダートラック 2 の音色 (パウンス

する前のトラック2の音色)、チャンネル n+3 にはバウンスされた音色が対応します。

■外部シーケンサーを同期させる

本機のレコーダーに合わせてMIDIで接続した外部シーケンサーやリズムマシンなどを同時に演奏(同期)させることができます。

本機はマスター機(コントロールする機器)として働きますので、接続したシーケンサー等はスレーブ機(コントロールされる機器)となります。

1 本機のMIDI OUTとシーケンサー等のMIDI INをMIDIケーブルで接続します。

2 接続したシーケンサー等をスレーブ機として設定します。
接続するMIDI機器のMIDIクロック等の設定はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

3 本機の[START/STOP]スイッチを押して同期演奏をさせます。
本機から出力されるMIDIクロック(テンポを合わせるための信号)はテンポボリュームに従います。

■レコーダーのデータを保存するには(データダンプ)

本機のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー(記憶装置)に保存し、必要なときに本機レコーダーに読み込み再生することができます。

▲ データファイラーの取扱説明書をよくお読みください。データを損失しないように十分注意してください。

演奏データをデータファイラーに保管します

1 本機のMIDI OUTとデータファイラーのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。

2 データファイラーを操作して本機からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。

3 本機の[MIDI/TRANPOSE]スイッチを押しながら、[音色セレクター]の[STRINGS]を押します。
データダンプが始まり、演奏データがデータファイラーに送信されます。

▲ データダンプの実行中は本機の鍵盤やスイッチに触れないでください。データダンプに要する時間は演奏データの量によって異なります。
ペダルの設定の変更の情報(☞p.10「レイヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定」)は、データファイラーに記録することはできません。

演奏データをデータファイラーから本機のレコーダーに戻します

1 本機のMIDI INとデータファイラーのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。

本機の電源を入れた状態にしておきます。
2 データファイラーを操作して、あらかじめ保管しておいた本機の演奏データを送信します(データの送信については、データファイラーの取扱説明書をご覧ください)。

▲ データダンプの実行中は本機の鍵盤やスイッチに触れないでください。

データファイラーから演奏データを受信しているあいだは本機から音は出ません。データの受信が終了、演奏データが本機のレコーダー内に元どおり正しく納められると音の出る通常の状態に戻ります。

1. スタンドの組み立て方



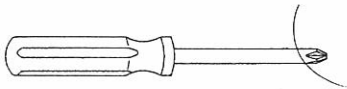
本体組み付けは二人以上で行ってください。
本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないように、注意してください。

部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。

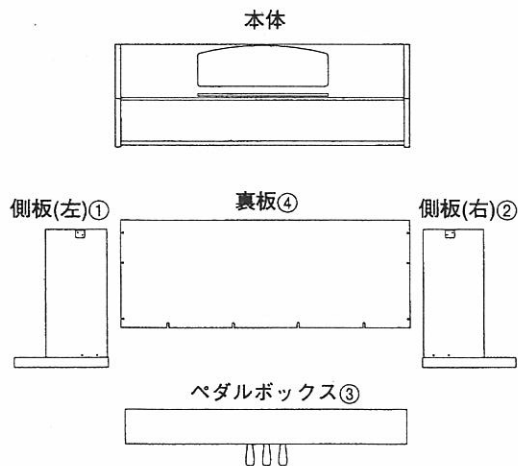
本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので注意してください。



- ① お手持ちの十（プラス）ドライバーを用意します。



- ② 箱をあけて部品を取り出します。
下記部品が揃っているのを確認してください。



ビニール袋詰め

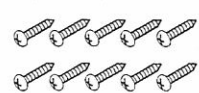
組み付けネジ ×4 ⑤
(M6×50)



アジャスター ⑥



ネジ ×10 ⑦
(3.5×16)



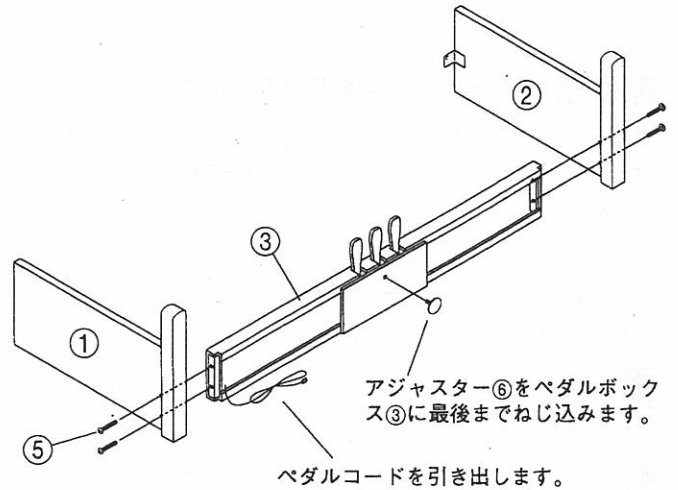
本体固定ネジ ×2 ⑧
(6×16)



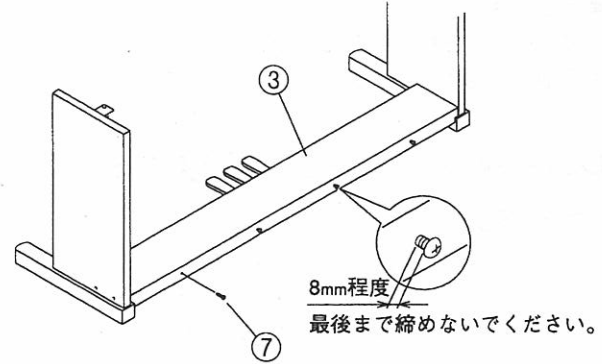
コードホルダー ×2 ⑨



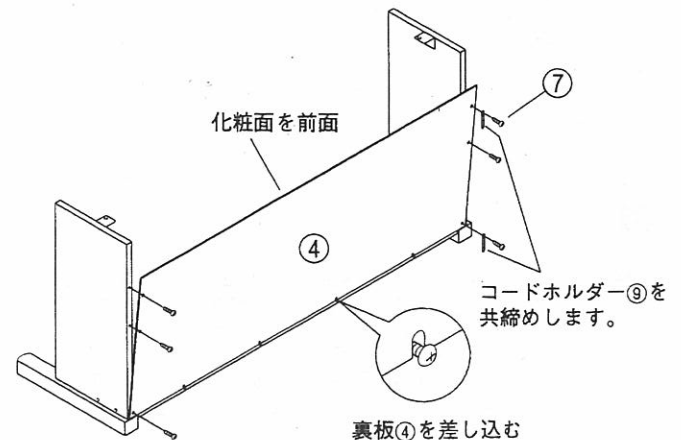
- ③ 側板（左）①と側板（右）②をペダルボックス③に組み付けネジ⑤4本で組み付けます。



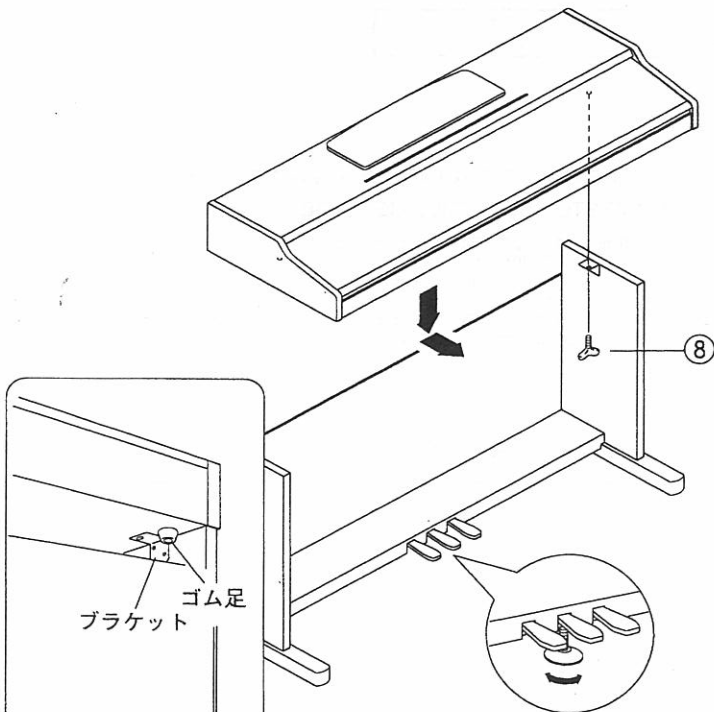
- ④ ネジ⑦4本をペダルボックス③に仮締めします。



- ⑤ 裏板④を組み付けます。
仮締めしたネジ⑦に裏板④を差し込みます。ネジ⑦6本で側板の下穴に合わせて裏板④を固定します。
仮締めのネジ⑦4本を最後まで締めます。

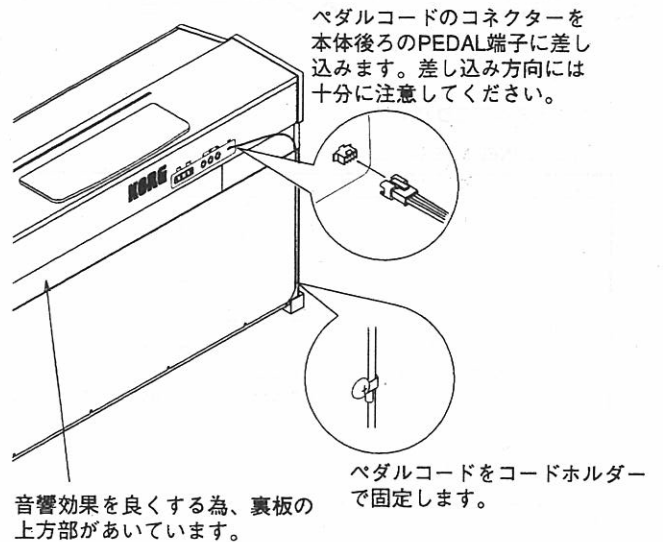


- ⑥ 本体を組み付けます。
 本体後ろ側から乗せ、軽く持ち上げ前側に動かします。
 側板のブラケットに本体底面のゴム足があたり止まります。
 本体固定ネジ⑧2本で下方から固定します。



アジャスターを回して、アジャスターの側面が床にしっかり当たるように調節してください。アジャスターが床面にしっかり当たらないとペダルがぐらついたり、音がびりつくことがあります。

- ⑦ ペダルコードを接続、固定します。



ペダルコードのコンネクターを本体後ろのPEDAL端子に差し込みます。差し込み方向には十分に注意してください。

ペダルコードをコードホルダーで固定します。

音響効果を良くする為、裏板の上方部があります。

組立後のチェック

- 部品は余っていませんか？
余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。
- 取付ネジのゆるみを確認してください。



注意

移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。また移動時には次のことを注意してください。

- ・ 電源コードは短く束ねてください。長い場合、コードが物に引っかかったりして、断線、ショートや破損の原因になります。
- ・ ペダルコードをドアのノブなどに引っかけないように注意してください。

ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには各ネジを締め直してください。

分解について

本体組み付け、スタンドの組立の逆の順番で分解してください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

ペダルコードはコンネクターのつまみを押しながら外してください。無理にコードを引き抜くと、壊れます。

2. MIDI インプリメンテーション

1. TRANSMITTED DATA

1-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0100 0000	Note Off kkk kkkk=15-113	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On kkk kkkk=15-113 vvv vvv=1-127	A
1011 nnnn	0100 0000	0000 0000	Damper Off (Damper Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0000	0111 1111	Damper On (Damper Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0010	0000 0000	Sosutenuto Off (Sosutenuto Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0010	0111 1111	Sosutenuto On (Sosutenuto Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0011	0000 0000	Soft Off (Soft Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0011	0111 1111	Soft On (Soft Pedal)	C
1100 nnnn	0ppp pppp	---- ----	Program Change ppp pppp=0-127	P*

nnnn : MIDI Channel No.(0-15)Usually Global Channel.

ENA=A : Always Enabled

C : Enabled when Control Filter is ENA

P : Enabled when Program Filter is ENA

*Program change is transmitted through keyboard, regardless of ENABLE/CANCEL.

1-2 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1000	Timing Clock *2
1111 1010	Start *2
1111 1011	Continue *2
1111 1100	Stop *2
1111 1110	Active Sensing

*2 : Transmits when Recorder is playing or Recording

2.RECOGNIZED RECEIVE DATA

2-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0xxx xxxx	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0000 0000	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On vvv vvv=1-127	A
1011 nnnn	0000 0111	0vvv vvvv	Volume	C
1011 nnnn	0100 0000	00xx xxxx	Damper Off	C
1011 nnnn	0100 0000	01xx xxxx	Damper On	C
1011 nnnn	0100 0010	00xx xxxx	Sosutenuto Off	C
1011 nnnn	0100 0010	01xx xxxx	Sosutenuto On	C
1011 nnnn	0100 0011	00xx xxxx	Soft Off	C
1011 nnnn	0100 0011	01xx xxxx	Soft On	C
1011 nnnn	0111 1010	0000 0000	Local Control Off	A
1011 nnnn	0111 1010	0111 1111	Local Control On	A
1011 nnnn	0111 1011	0000 0000	All Notes Off	A
1011 nnnn	0111 110x	0000 0000	(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1110	000m mmmm	(All Notes Off) m mmmm=0-16	A
1011 nnnn	0111 1111	0000 0000	(All Notes Off)	A
1100 nnnn	0ppp pppp	---- ----	Program Change	A

kkk kkkk : Note No.

vvv vvvv : Velocity

x : Random

ENA Same as TRANSMITTED DATA

2-2 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1110	Active Sensing

3. MIDI EXCLUSIVE FORMAT (R:Receive, T:Transmit)

3-1 SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE

1st Byte = 1111 0000 (F0)	: Exclusive Status] EX.Header
2nd Byte = 0100 0010 (42)	: KORG ID	
3rd Byte = 0011 nnnn (3n)	: Format ID n : Global ch.	
4th Byte = 0011 0111 (37)	: Device ID	
5th Byte = 0100 1000 (48)	: Function=All Sequencer Data Dump	
6th Byte = 0ddd dddd (dd)	: Data	
⋮	⋮	
LastByte = 1111 0111(F7)	: End of Exclusive EOX	

ALL SEQUENCER DATA DUMP R, T

Byte	Description
F0, 42, 3n, 37	EXCLUSIVE HEADER
0100 1000	ALL SEQUENCER DATA DUMP 48H
00mm mmmm] channel 0 status (See Note 1)
0bbb xxxx	
0kkk kkkk	
0ppp pppp	
0qqq qqqq] channel 15 status (See Note 1)
⋮	
00mm mmmm	
0bbb xxxx	
0kkk kkkk] Track 1 Data size(=0hss ssss srrr rrrr)
0ppp pppp	
0qqq qqqq] Track 1 Data
⋮	
0rrr rrrr] Track 2 Data size(0hss ssss srrr rrrr)
0sss ssss	
0000 000h] Track 2 Data
0ddd dddd	
⋮] Next Bounce Channel
0000 cccc	
1111 0111	END OF EXCLUSIVE

Note 1)

mmmm : Program No.

bbb : Volume balance

kkkkkkk : Split point

ppppppp : Upper Split Octave Value

qqqqqqq : Lower Split Octave Value

ch0:Track1,ch1:Track2,ch2~ch15:Bounce channel(Track2)

3. MIDI インプリメンテーションチャート

[デジタルピアノ]
FC-300/WP-300

MIDI インプリメンテーションチャート

ファンクション...	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能 1 - 16	1 1 - 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用 *****	3 X	
ノート ナンバー : 音域	15 - 113 *****	0 - 127 21 - 108	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ 1 - 127 X	1 - 127 X	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別 X X	X X	
ピッチベンダー	X	X	
コントロール	7 X	○	ボリューム * 1
チェンジ	64 ○ 66 ○ 67 ○	○ ○ ○	ダンパーペダル * 2 ソステヌートペダル * 2 ソフトペダル * 2
プログラム チェンジ : 設定可能範囲	0 - 127 *****	0 - 56 0 - 56	* 3
エクスクルーシブ	○	○	Device Inquiry Sequence Data Dump
コモン	: ソングポジション X : ソングセレクト X : チューン X	X X X	
リアル タイム	: クロック ○ : コマンド ○	X X	
その他	: ローカルON/OFF X : オールノートオフ X : アクティブセンシング ○ : リセット X	○ ○ 123 - 127 ○ X	
備考	* 1 コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、受信する。 * 2 コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 * 3 プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 鍵盤を使ったプログラム・チェンジは、イネーブル/キャンセルに関係なく送信する。		

モード1: オムニオン、ポリ

モード2: オムニオン、モノ

○: あり

25

モード3: オムニオフ、ポリ

モード4: オムニオフ、モノ

X: なし

4. 故障とお思いになる前に

故障かなと思ったときは、次の事項を確認してください。それでも症状が改善されないときには、お近くの販売店またはコルグサービスセンターまでお問い合わせください。

電源が入らない

・電源コードがソケットにしっかり入っていますか? .. ❷p.6

音が出ない

・[MASTER VOLUME] が上がっていますか? ❷p.6

・MIDI ローカルオフになっていませんか? ❷p.19

・ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか? ❷p.6

5. 仕様

鍵盤	88 鍵 (A0～C8)
音色	6 音色: ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、パイプ、オルガン、ストリングス、(ベース「スプリットモード設定時」)
最大同時発音数	32 音
効果	サラウンド (ルーム、ホール)、エフェクト (トレモロ、コーラス)、プリリアンス、レゾナンスシミュレーション
レコーダー	最大 2,600 ノート テンポ、メトロノーム、トラック (1, 2)、レコード、スタート/ストップ、リピート、(バウンス機能付き)
キーボードモード	シングル、レイヤー、スプリット、(MIDI マルチ)
コントロール	ボリューム、パワースイッチ、キートランスポーズ、ピッチコントロール、タッチコントロール、古典音律
ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート
接続端子	PHONES × 2、AUX IN (L・R)、AUX OUT (L・R)、MIDI (IN・OUT・THRU)、PEDAL
メインアンプ	20W × 2
スピーカー	16cm × 2
定格電源	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	47W
外形寸法	1,340(W)×476(D)×830(H)mm
重量 (スタンド含)	46kg
付属品	スタンド、高低自在イス、ヘッドホン

※ 仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

6. 索引

ア	
アクセント音	11
アコースティックベース	8
エ	
演奏データ残量	17
オ	
音量	6, 9, 11
コ	
コントロールチェンジ	20
サ	
サラウンド効果	9
シ	
シングルモード	8
ス	
ストレッチチューニング	13
スプリットモード	8
オクターブアップ・ダウン	9
ポイント	8
音量バランス	9
ソ	
ソステヌートペダル	10
ソフトペダル	10
タ	
タッチコントロール機能	12
ダンパーペダル	10
テ	
データダンプ	21
データファイラー	21
テンポ	11
ト	
同期	21
トランスポーズ機能	12
ハ	
バウンス	15
バックアップバッテリー	3
ヒ	
拍子	11
フ	
プログラムチェンジ	19
ヘ	
ペダル用コネクタ	2
ペロシティカーブセレクト	20
マ	
マルチティンバー音源	20
メ	
メトロノーム	11
モ	
モジュレーション効果	9
リ	
リピート	16
レ	
レイヤーモード	8
音量バランス	9
レゾナンスシミュレーション	10
ロ	
ローカルオン・オフ	19
M	
MIDI	18
チャンネル	19

7. [MIDI/TRANSPOSE] スイッチの機能

スプリットポイント (※ p.8)
[MIDI/TRANSPOSE] スイッチと [SPLIT] スイッチを
押しながら、スプリットポイントとする鍵盤を押さえます。

MIDI/TRANSPOSE

SPLIT

PIANO

E.PIANO

HARPSI

VIBES

ORGAN

STRINGS

OROOM

OCHORUS

OHALL

OTREMOLO

SURROUND EFFECT

STANDARD

LIGHT

HEAVY

タOUCHコントロール

古典音律

平均律・キルンベルガー

フエルクマイスター

(※ p.13)

TEMPERATURE

40

120

200

TEMPO

METRONOME

RECORDER

メトロノーム

の音程調節

(※ p.11)

TRACK

RECORD

デモ演奏

デモセレクト

(※ p.7)

START/STOP

リポート区間

(※ p.16)

REPEAT

[MIDI/TRANSPOSE]
スイッチを押しながら、各
スイッチを押します。

2拍子

3拍子

4拍子

6拍子

アグセント

アグセント

アグセント音

をベルの音

にします。

音を通常

のクリック

音にします。

(※ p.11)

ピアノの音色時のダ

ンパーペダルを踏ん

だときの共通音の長さ

(※ p.10)

[MIDI/TRANSPOSE]
スイッチを押しながらダン

パーペダルを踏んだ状

態でスイッチを押します。

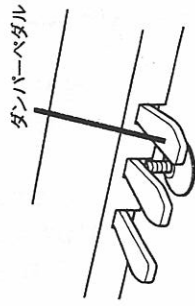
レイヤー・スプリット時、選

択されている二つの音色

のうち一つだけがペダル

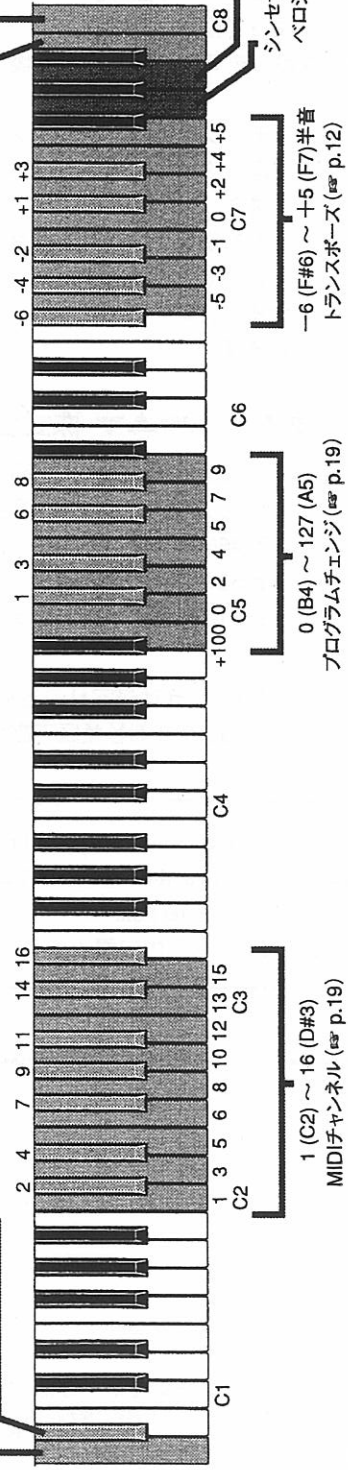
の効果がかかります。

(※ p.10)



[MIDI/TRANSPOSE]
スイッチを押しながら、各
鍵盤またはペダルを押
します。

スプリットモードでの低音側の音域変更 (※ p.9)
オクターブダウン A0 オクターブアップA#0



[MIDI/TRANSPOSE] スイッチは、トランス
ポーズ機能やMIDIモードの設定の他にさま
ざまな機能を設定するときに使います。

アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
2. 輸送および移動時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災（火災等）によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーションおよびコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12	☎(03)5376-5022
東京営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)3323-5241
名古屋営業所	〒466 名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎(052)832-1419
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川 5 番館 7F	☎(06) 374-0691
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金 1-3-25 第2 池田ビル 1F	☎(092)531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。

営業技術課 〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)3309-7004

<WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

（この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。）

KORG

■本社：〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)3325-5691 ■インフォメーション：〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)5376-5022
■東京営業所：〒168 東京都杉並区下高井戸 1-11-17 ☎(03)3323-5241
■名古屋営業所/ショールーム/スタジオ：〒466 名古屋市昭和区八事本町 100-51 ☎(052)832-1419
■大阪営業所：〒531 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川 5 番館 7F ☎(06)374-0691
■福岡営業所：〒810 福岡市中央区白金 1-3-25 第2 池田ビル 1F ☎(092)531-0166